

なぜなケアプランセンター



入院中の利用者のカンファレンスに参加した。本人は早く家に帰りたいとの希望がつよい。身体機能は少し動かせるが、同居する妻も体が弱く介護を期待するのは難しい。病気で体が不自由になった事に、本人が一番もどかしい気持ちになっているようだが、普通は『こんな状態で、家で過ごせるのか』と思う。それでも、涙ぐみながら「どうしても自宅に帰りたい」と言うからには、その気持ちに何とか応えたいと思うようになった。退院後の生活は大変になるが、介護・医療が連携して、何とか自宅で過ごせるよう支援したい。

共生の里ヘルパーステーション



入浴介助で、最初は「面倒くさい」とか「しんどくなるから」とか言って入浴してくれないことがあります。そんな時は、無理強いせずに「シャワーだけでもどうですか？」と提案すると「それくらいなら…」と聞き入れてくれることがあります。シャワーをしているうちに、浴槽に浸かることも勧めます。浸かっている間は、コミュニケーションが生まれるので昔の話などをします。時には「頑張っていたら良いことあるからね」と、逆に励まされます。でも、何よりも笑顔の「ありがとう」が、私のやりがいに繋がっています。

誕生日に寄せて

広島で生まれ育ち5歳から海で泳いで遊んでいました。高槻には就職で来て、主人とは恋愛結婚だったと言います。大好きな動物と花に囲まれ、子どもを3人育てました。子どもたちが成長し、主人も亡くなると動物を飼う気にもならず、一人家に閉じこもっていました。そんな時、デイサービスを勧められ、今では週に5日デイに来ています。デイで友達ができたので寂しくないし、花の塗り絵が大好きだと嬉しそうに話してくれました。

